

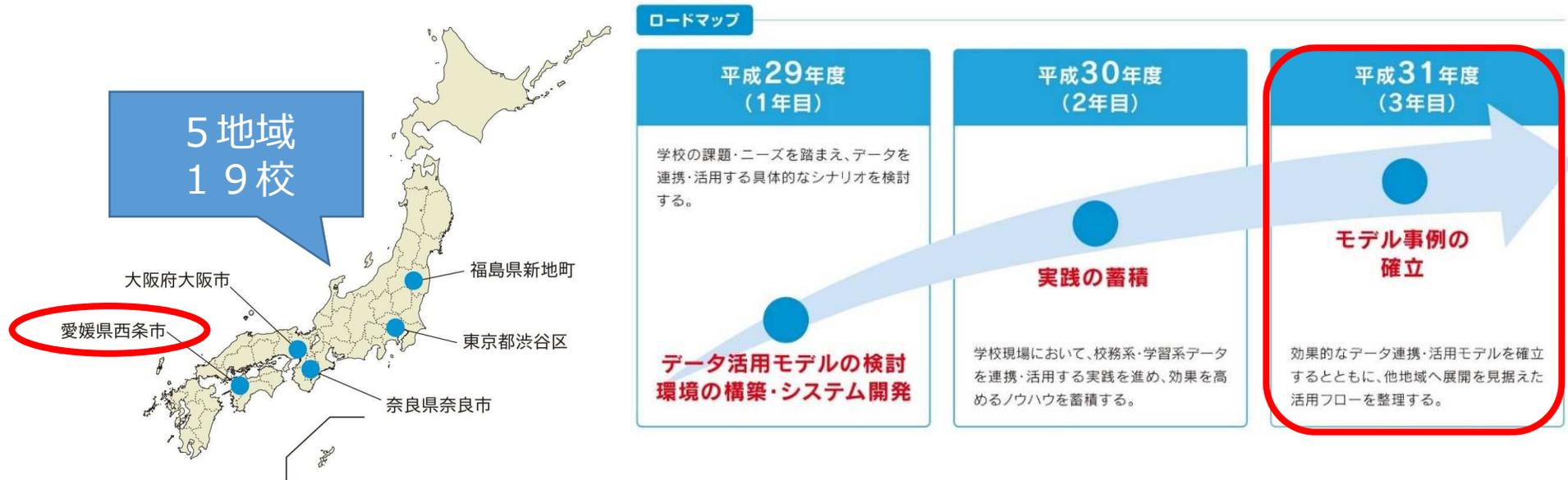


ICTを活用したスマートスクール
実証事業研究大会

西条市立神戸小学校

本事業の概要

本事業は、当市が総務省「スマートスクール・プラットフォーム実証事業」および文部科学省「次世代学校支援モデル構築事業」の委託を受け、平成29年度から「教育の質の向上」を目指し取り組んでいるものになります。



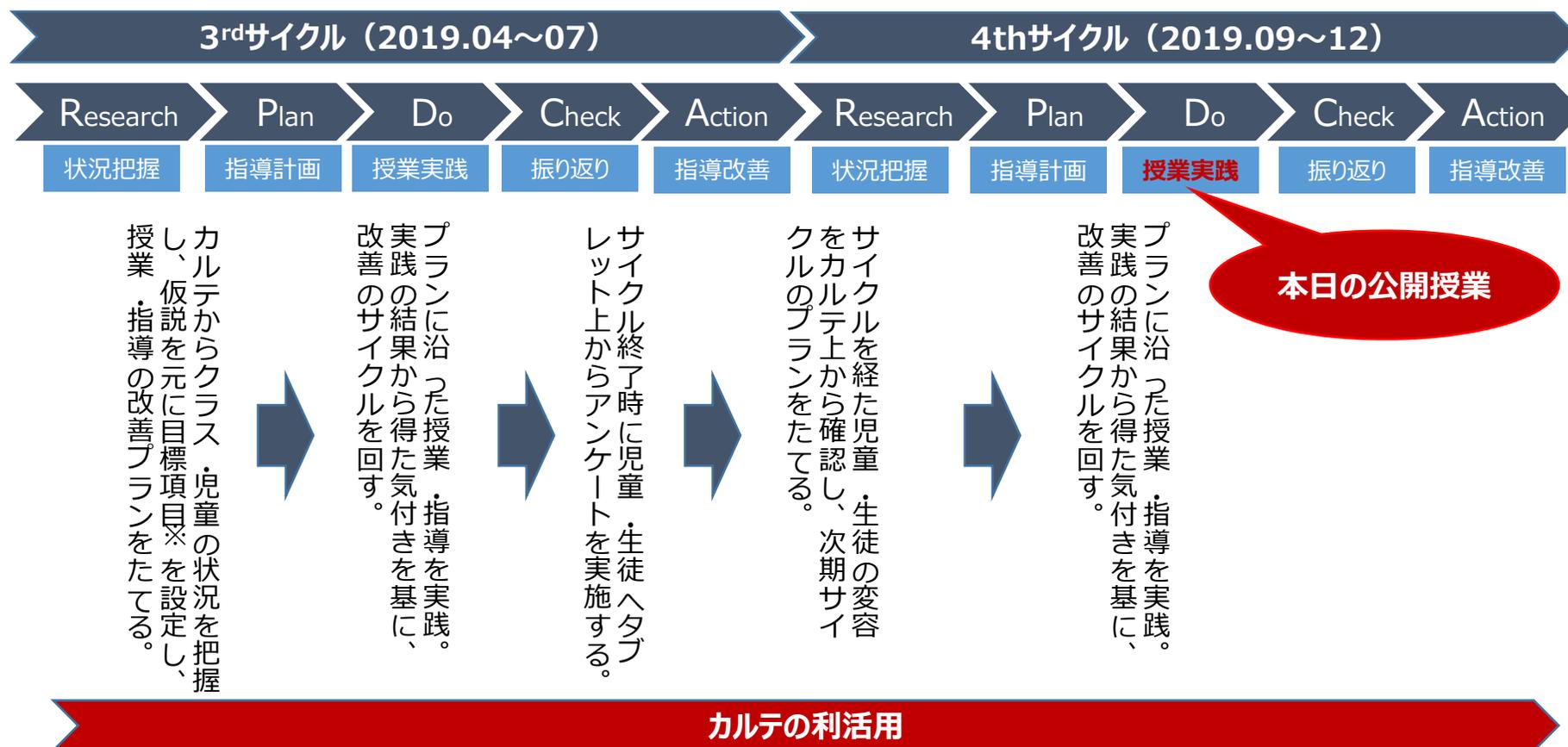
【西条市における実証校】

- ・ 西条市立壬生川小学校
- ・ 西条市立神戸小学校
- ・ 西条市立西条東中学校

当市の取組概要の紹介

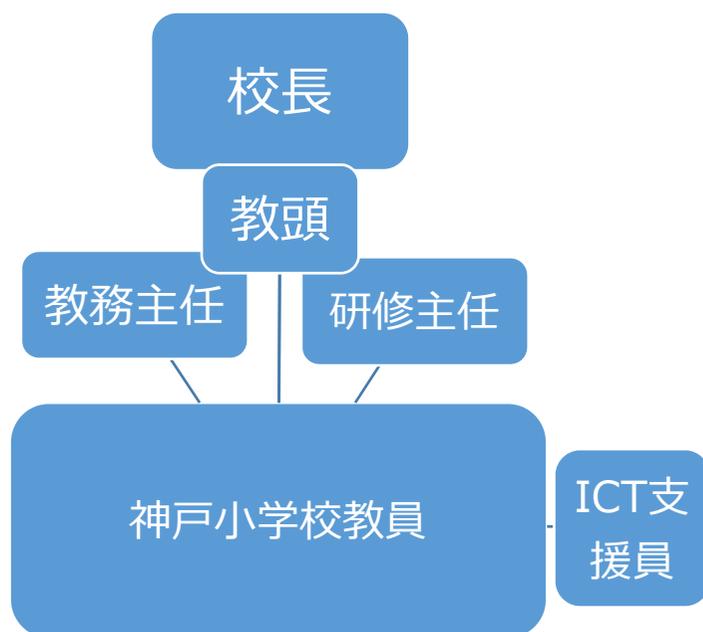
カルテの利活用を中心に、教育の質の向上に向けたRPDCAサイクルを回しています。また、このサイクルから発生するデータ連携・活用のベストプラクティスやノウハウの蓄積を行っています。

【今年度RPDCAサイクルの取組状況】



神戸小学校での取組概要の紹介

取組み体制



学校の教育目標

「自らの力で 未来をひらく 神戸っ子の育成」

取組みのポイント

- ・目標項目を意識したアクティブ・ラーニング型授業に取り組み、学校全体で共有が図れる実践事例とデータの蓄積に努めた。
- ・授業後必ず、目標項目に照らした振り返りアンケートを実施し、活用データの拡大に生かした。
- ・ICT支援員との連携を密にし、授業づくり・振り返り・カルテ分析等、授業改善に向けて協力して研究を深めた。

本日の授業者



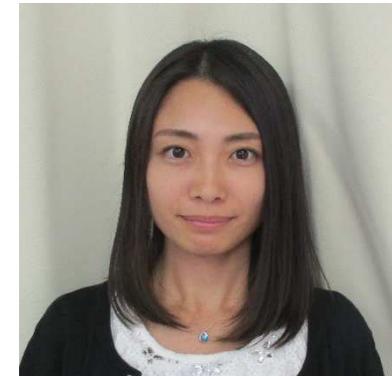
3年梅組 寺尾 由香教諭

教科：算数科
単元：何倍でしょう



5年梅組 十亀 亮一教諭

教科：社会科
単元：自動車をつくる工業



6年梅組 中塚 葵教諭

教科：音楽科
単元：私たちの国の音楽
～越天楽今様～

授業者のこれまでの取組



3年梅組 寺尾 由香 教諭

教科：算数科

単元：何倍でしょう

これまでの取組 状況把握・指導計画



1. カルテを確認する

■ ホーム(クロス分析) ■ 行動・意欲集計 ■ アンケート項目一覧

↓

2. カルテからの気づきをまとめる

学習意欲は、比較的高い児童が多い。学習意欲が高くても、学力にうまく結びついていない場合もあるので、どこでつまづいているか、確認していきたい。

どのアンケート項目でも、全く当てはまらないを選んでいる児童は、数名で同じ児童である。その児童に自信をつけさせ、自己肯定感が上がるような声掛けや支援をしていきたい。

↓

3. 実践に向けた仮説を立てる

学習意欲をうまく学力に結びつけるために、発表する場の設定やタブレットなどの効果的な利用を行い、さらに学習への関心を高める。そのことで、相手の考えに興味をもって聞き、そこから自分の考えとも比較できるようにし、自分の考えに自信をつけさせ、自己肯定感を高め、学力の定着を図る。



4. 仮説に基づいた目標設定 (伸ばしたい力)

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している
【選択理由】

簡単な問題での発表意欲はあるが、考え方を説明する場面では、発表意欲が低下する。**なぜそう思ったかを友達に説明することで、自分の考えがさらに深まるようにペアや改善点活動での話し合いを取り入れながら、実践していきたい。**

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている
【選択理由】 ➡ **改善ポイント②**

自分と同じ意見でも、違う意見でもまずは聞き合い、認め合えるような雰囲気をつくる機会を設けたい。
その上で、友達の意見について注目し、考えを練り合うことで、自分の考えを深められるようにしていきたい。

18 集めた資料やデータを使って、わかりやすく説明したり発表したりしている
【選択理由】 ➡ **改善ポイント③**

半分の児童が、あまりできていないと感じている。タブレットなどを上手く使い、**自分が集めた資料や考えをみんなに分かりやすく提示して、発表する機会を増やすことで、自信をたもたせたい。**

これまでの取組 授業実践・振り返り



<p>授業改善ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、ペアで式とわけを考える場を設定して、理由まで言えるようにする。 ・ 自分たちが考えた説明の仕方を全体で共有し、考えることで理解を深めるようにする。 	<p>授業改善ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、ペアでなぜそうなったか図に書き込みながら、説明の仕方を一緒に考えることで、お互いの考えを練りあえるようにする。 ・ 自分たちが考えた説明の仕方を全体で共有し、意見交換を行うことで、半径の出し方の理解を図る。 	<p>授業改善ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをもつ場面の後には、グループ活動を取り入れ、意見交換の場を設定する。 ・ グループで意見交換を行うことで、自分の考えを確認するとともに、いろいろな考え方を聞く機会を増やす。 	<p>授業改善ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、ペアで夏から連想する言葉をたくさん考えることで、言葉集めを楽しめるようにする。 ・ 自分たちが夏から連想する言葉を全体で共有し、知ることで理解を深めるようにする。
<p>実践による気付き 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアによっては、話し合いができないところや、一人で進めてしまっているところなどそれぞれで、話し合いを深めるための手立てを考えていきたい。 ・ 楽しんで考えていたが、その後のアンケートを見てみると、十分理解できていない児童もいた。また、復習していきたい。 	<p>実践による気付き 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが書き込んだ図を使って説明できることは、発表の自身につながっていた。 ・ その後の確認問題を見てみると、理解が十分でない児童がいたので、練習問題などをさらに行い、習熟を図りたい。 ・ 振り返りなどでは、いつもは自信のない児童もみんなの前で発表していた。 	<p>実践による気付き 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画像や動画から気付いたことを交流するには、ある程度じっくり視聴して、考える時間が必要である。考えて書く習慣を意識して、授業を組み立てるようにしたい。 ・ 簡単な問いにも自信がなく、答えが出にくい子がいた。自信をもって発表できるよう関わっていきたい。 	<p>実践による気付き 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連想できる言葉をたくさん集めたことで、どのペアの発表にもお互いに関心があり、興味をもって発表をきく児童が多かった。 ・ その後のアンケートを見てみると、課題は解決できたや、自分の意見と比べながら、友達の意見を聞くことができたと感じている児童の割合が多かった。

これまでの取組 指導改善～次サイクル指導計画



カルテの確認ポイント

- ホーム(クロス分析) ■ 行動・意欲集計 ■ アンケート項目一覧



サイクルを通じた気付きポイント

どのアンケート項目も7月のアンケートの方が、スコアが上がっている。一時間一時間の学習問題を意識して学ぶことで、児童自身にも課題がより明確になり、自信につながったのではないと思う。全く当てはまらないを選んでいる児童も減っている。

学力の定着からいくと、国語が苦手な児童が多いなど課題も見られる。



仮説に対する実践結果

- ・ 学習の意欲は、高まっている。ICTなどを利用することで、発表の仕方なども分かりやすくするためには、どうすればよいのか考える場面が増えている。
- ・ 自己肯定感が大変低かった児童も少しずつではあるが、上がってきている。そのことが自信につながり、学力が定着するような手立てをさらに考えていかなければならない。

次期サイクルでの目標

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

全体的に理由も説明していると感じている児童が増えている。理由もつけて発表している児童をこれからも称賛し、発表には理由もつけるということを徹底していきたい。

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

考えを深めたり、広げたりしている児童の割合が上がっている。これは、ペアやグループでの話し合いの機会をできるだけたくさん設けたことによって、意識が上がってきたのではないかと考える。次のサイクルでも、たくさんそのような機会を増やし、お互いの意見を気楽に話せ、練り合えるような雰囲気を作りたい。そして、相手の考えをよく聞く態度を身に付けさせ、自分の考えにも自信をもたせたい。自信を持って発表する手立てとして、「まず、次に、だから…」の話型を提示し、説明する力を養いたい。

18 集めた資料やデータを使って、わかりやすく説明したり発表したりしている
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

キー授業などの実践において、タブレットを使ってペアで考えを出し合い、その資料を全体で共有して、説明する場の設定をしたことで、できたと感じる児童が増えた。これは、次期サイクルでは、さらに説明する

本日のアクティブ・ラーニング型授業デザイン

アクティブ・ラーニング型 授業デザイン

3年	算数科	単元名	何倍でしょう。	3/3	神戸小学校 寺尾 由香
----	-----	-----	---------	-----	----------------

★ 単元のねらい	変数に着目し、何倍になるかを考えて問題を解
☆ 本時のねらい	ロのa倍のb倍を求める問題を、ロ×
○「アクティブ・ラーニング」にお	追究の場面では、グループで話し合
学習問題について話し合い、解決	
◇ カルテからの目標設定	
②主体力「自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している。」	話型をはっきりさせること
⑫協働力「グループやクラスのいろいろな意見をうまく使って考えを深めたり広げたりしている。」	学習活動のパターン化を取り入れたこと

◇カルテからの目標設定

②主体力「自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している。」
話型をはっきりさせることで、理由の説明の仕方が、定着してきている児童がいる。それを高めるために、みんなに分かりやすく伝えるためにはということを意識させながら、「ま・つ・だ」の話型を活用し、定着を図る。

⑫協働力「グループやクラスのいろいろな意見をうまく使って考えを深めたり広げたりしている。」
学習活動のパターン化を取り入れたことで、見通しがもて、自信をもって取り組める児童が増えている。そのことを十分に生かしながら、グループで考えたことを、タブレットPCのオクリンクを使って図と式で表す。それを全体で共有しながら説明したり、聞いたりすることで理解を深める。

展開	時間	学習活動の流れ・予想される児童の発言
問題の発見	8分	1 前時までの振り返りをす 2 問題を読んで、分かって う。 ☆ 問題の必要なところに ☆ 今日の問題になっている るチョコレートの数だ 学習問題 何倍になるかを考えて、図 説明できるかな？
	20分	3 自力解決をする。 ☆ 前時までのことをヒン ☆ 何倍になる数は、どれた ☆ まずは、図で表してみよう ☆ 1回に2個ということは、2 ☆ 2個が、3回だから2個の3倍だ ☆ 2個ずつが、3日間だから、3日間分のところ は、3倍だ。 ☆ 語をつなげてみると、1回分が2この3倍の3倍 だから、3×3で9倍だ。 ● 図をどこからかいてよいのか 分らない児童には、話の順に 2つの数量の関係に着目させ 関係図をかくよう声掛けする。

授業者のこれまでの取組



5年梅組 十亀 亮一 教諭

教科：社会科

単元：自動車をつくる工業

これまでの取組 状況把握・指導計画



1. カルテを確認する

- ホーム(クロス分析) ■行動・意欲集計 ■アンケート
- 成績情報 ■学習履歴



2. カルテ確認からの「気付き」

全ての教科において発展問題が苦手で、特に既習事項を活用して解く問題や記述式の問題の正答率が低い。また、行動・意欲のアンケート項目においても自分の学習活動に自信をもって取り組んでいる児童は少なく、項目によっては全くできていないと感じている児童も数名いる。アンケート項目の低い内容を意識して授業を進めることで意欲だけでなく既習事項の活用力も伸ばせていけると考える。



3. 「気付き」から実践に向けた仮説を立てる

・資料から読み取ったことをペアやグループで共有したり、その原因や理由について意見を出し合う活動を繰り返し行うことで、友達の見解を聞いて自分の考えを広げたり、深めたりする力が身に付くであろう。またその活動の後、自分の考えをタブレットなどで表現する活動や友達と交流する活動を繰り返し行うことで、根拠をもとに説明したり理由をつけて意見を述べる表現力が身に付くであろう。

4. 仮説に基づいた目標設定 (伸ばしたい力)

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している【選択理由】

自信をもって取り組んでいる児童は全体の1割で、3割の児童はできていないと感じている。実際、学習場面やテストの記述式問題でも、よくできている児童は少なく、何をどのように答えればよいかわからない児童が多い。**本項目を意識改善学習活動を行うことで児童の説明する力を伸ばしていきたい。**

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている【選択理由】

本クラスでは、発言をする児童は固定化しており、グループでの話し合い活動でも発言力のある児童に頼りがちな部分があり、**練習ポイント**においてはあまりできていない。**タブレットを使って普段発言の少ない児童の意見も可視化することで話し合い活動を活性化していきたい。**

18 集めた資料やデータを使って、わかりやすく説明したり発表したりしている【選択理由】

全体の3割の児童があまりできていないと感じており、学習場面やテストで資料から必要な情報を取り出す力ができていない児童は

これまでの取組 授業実践・振り返り

3rdサイクル (2019.04~07)

4thサイクル (2019.09~11)

Research

Plan

Do

Check

Action

Research

Plan

Do

授業実践

振り返り

授業改善ポイント

- ・資料から工夫を見つけ、なぜそのような工夫をしているのか理由を考えさせる。
- ・良い意見を全体で共有することで、表現の仕方のお手本を確認し、次回の活動へとつなげる。



実践による気づき

タブレットで表現することにまだ慣れておらず、理由だけでなく、工夫すらみつけられていない児童が多かった。また、理由がしっかりかけている児童は少なく、これまでの経験の少なさが浮き彫りとなった。評価を取るために個人での作業を重視したが、次回以降読み取り資料のレベルを少し下げることが必要だと感じた。

授業改善ポイント

- ・前回のキー授業で資料を読み取る力が児童に不足していると感じた。そこで本時では資料を簡単にし、資料を読み取る練習を行うこととした。また、今回は読み取りと理由の考察を同時に行ったが、今回はそれぞれ別の問題として独立させ、時間をかけて考えさせるようにした。



実践による気づき

今回は資料のレベルを落とし前回よりも多くの児童が読み取ることができた。しかし、まだ読み取れていなかったり、問いに適していない児童も多かった。評価のために個人で行うことにこだわっていたが、今回は表現のみ個人で行い、考えをまとめるのはグループで行ってほしい。

授業実践

カルテを確認する

授業を振り返る

授業改善ポイント

- ・資料から読み取ったことがどう解決になるのか二つの資料を結びつけて考える必要のある課題を設定した。
- ・グループでの話し合い活動を中心とし、意見を出し合いながら根拠を考えられるようにした。
- ・根拠をもとに説明するポイントを提示し、児童の説明の手助けとした。



実践による気づき

今回の課題は前時の学習内容（資料の読み取り）を踏まえたもので内容も比較的簡単であったため、すべてのグループが答えにたどり着くことができ、児童のアンケート結果も非常に良かった。思ったよりも時間を要し、二つ目の課題については次回行うこととなった。時間配分もしっかり考え、今回の課題は学習モデルとして扱ってもよかったかもしれない。

データに基づいた授業改善サイクルを6回繰り返しました

これまでの取組 指導改善～次サイクル指導計画



カルテの確認ポイント

- ホーム(クロス分析) ■行動・意欲集計 ■ アンケート
- 成績情報 ■学習履歴



サイクルを通じた気付きポイント

重点項目(2,12,18)についてはどの項目も肯定回答(4,3)の割合が増加している。しかし、まったくあてはまらないを選んだ児童も少数ではあるが増加している。3rdサイクルでキー授業を数回行い、**教師側の実感としては、児童の「自分の意見を根拠を示しながら説明する」力と経験の不足を感じた。**

そこで授業を実施するにあたり、教材や課題のレベルを児童に合わせ、必要に応じて教師からヒントを与えたり、個人で考えるよりグループで相談する活動を増やしたりするなど、児童の実態に合わせて授業の構成を行った。こういった授業の積み重ねにより児童の力も徐々に伸びつつあるが、まだまだ満足度のいくレベルには達していない。

重点項目を意識した経験の積み重ねにより、できたと感じた児童は増えてきてはいるが、まだまだできていないと感じている児童、まったくできていないと感じた児童を底上げし、満足感をもてるような授業改善の手立てが必要であると感じた。

次期サイクルでの目標

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

多くの児童が、グループでの話し合いや相談を経て自分の考えを根拠とともに説明できるようになってきた。しかし、**個人での活動となるとできる児童はまだ多くはない。学習モデルや課題の出し方などを工夫し、個人でもできるように授業改善を行っていききたい。**

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

グループでの話し合いをもとに、友達の意見を聞いて自分の意見をもつことができるようになった児童は増えた。しかし、話し合い活動が意見の共有にとどまり、そこから練り合うという段階にはまだ達していない。次のサイクルでは、**話し合いの際にポイントを提示するなどし、より高いレベルの話し合い活動になるようにしていきたい。**

18 集めた資料やデータを使って、わかりやすく説明したり発表したりしている
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

この項目の上昇については、総合的な学習の時間の活動によるものが多いと思う。本サイクルではこの項目を意識したキー授業はあまり行えな

本日のアクティブ・ラーニング型授業デザイン

アクティブ・ラーニング型 授業デザイン

5年	社会科	単元名	自動車をつくる工業	7/9	神戸小学校 十亀 亮一
----	-----	-----	-----------	-----	----------------

★ 単元のねらい。
自動車をつくる工業を具体例として、我が国の工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産に、工業生産が国民生活を支える重要な役割に、工業生産が国民生活を支える重要な役割を認識することができる。

☆ 本時のねらい。
海外での現地生産が増えてきている理由を説明することができる。

○「アクティブ・ラーニング」におけるねらい。
自分たちの考えをタブレットPCや電子黒板を通して各自の考えを広げたりする。

◇ カルテからの目標設定。
協働力「グループやクラスのいろいろな意見をうまく使って考えを深めたり広げたりしている。」
タブレットPCを使って意見を共有することで、自分の考えに自信をもって発表したり、考えを広げたりすることのできる児童が増えてきている。本時でも、グループで考えた意見をタブレットPCや電子黒板を使って共有し、説明したり聞いたりすることや付け足し、反論の意見をもとに追究することで各自の考えを深めるようにしたい。

活用力「集めた資料やデータを使って、分かりやすく説明したり発表したりしている」
カルテによると本学級の児童は、資料から読み取ったことをもとに理由を考えたり、予想を立てたりすることを苦手とする児童が多かった。そこで、グループでの話し合い活動やヒントカードを用いた活動の経験を積ませることで、徐々に根拠をもとに自分の考えをもつことのできる児童が増えてきた。本時では、現地生産が増えてきている理由について資料やヒントをもとにグループで話し合い、現地生産の利点を根拠をはっきりと示して自分たちの考えをまとめられるようにしていきたい。

◇ カルテからの目標設定

⑫協働力「グループやクラスのいろいろな意見をうまく使って考えを深めたり広げたりしている。」

タブレットPCを使って意見を共有することで、自分の考えに自信をもって発表したり、考えを広げたりすることのできる児童が増えてきている。本時でも、グループで考えた意見をタブレットPCや電子黒板を使って共有し、説明したり聞いたりすることや付け足し、反論の意見をもとに追究することで各自の考えを深めるようにしたい。

⑬活用力「集めた資料やデータを使って、分かりやすく説明したり発表したりしている」

カルテによると本学級の児童は、資料から読み取ったことをもとに理由を考えたり、予想を立てたりすることを苦手とする児童が多かった。そこで、グループでの話し合い活動やヒントカードを用いた活動の経験を積ませることで、徐々に根拠をもとに自分の考えをもつことのできる児童が増えてきた。本時では、現地生産が増えてきている理由について資料やヒントをもとにグループで話し合い、現地生産の利点を根拠をはっきりと示して自分たちの考えをまとめられるようにしていきたい。

展開	時間	学習活動の流れ・予想される
問題の発見	10分	1 本時の学習問題を確認する。 学習問題 海外での現地生産をするところがあるのだろうか。 ☆ 船で運ぶ手間がないから。 ☆ 輸送費がかからないから。 ☆ 海外で日本車が人気だから。
		2 資料をもとにグループで考えたりする。 ☆ 輸送費がかからないとどうだろうか。 ☆ 輸送しなくていい場合、おもしろいだろうか。 ☆ 日本と外国では車の細かがあるだろうか。 ☆ 海外に工場がない場合、壊れやすいだろうか。 ☆ 日本と比べると賃金はどうか。 ☆ 海外の人が喜ぶような理由はないだろうか。
追究	25分	

授業者のこれまでの取組



6年梅組 中塚 葵教諭

教科：音楽科

単元：私たちの国の音楽

～越天楽今様～

これまでの取組 状況把握・指導計画



カルテの確認ポイント

- ホーム(クロス分析) ■ 行動・意欲集計 ■ 学習履歴
- アンケート項目一覧

カルテからの気付きポイント

全体的に行動意欲が高い傾向にある。しかし、アンケート項目一覧によると、理由をつけて説明することや、友達の見を生かして考えを広めることについて自信をもっている児童はやや少ない傾向にある。また、新しいアイデアを考えたり工夫したりすることに苦手意識をもっている児童もいる。音楽科において、グループでの鑑賞や音楽づくりの活動内容を充実させることにより、その両面を伸ばしていけると考える。

実践に向けた仮説

- ・ 感受したことや表現したいことと音楽的要素などを関連付けることを意識して鑑賞や音楽づくりの活動を行うことで、知覚と感受とを結び付けながら自分の思いを説明したり表現したりする力を伸ばしていけるだろう。
- ・ ペアやグループ、全体での共有をする時間を多く取り入れることで、多様な考えに触れて自分の考えを深めたり創造力を伸ばしていけるだろう。

仮説に基づいた目標設定

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している

【選択理由】

全項目の中で一番、「とてもあてはまる」と回答した児童が少ない。鑑賞や音楽づくりの活動において、話型や例を提示し、感受したことや表現したいことと音楽的要素などを関連付けながら自分の思いを説明したり表現したりする力を伸ばしていきたい。

➡ **改善ポイント①**

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている

【選択理由】

全項目の中で2番目に「とてもあてはまる」と回答した児童が少ない。鑑賞においては、グループや全体で意見を共有することで自分の気付かなかった点に注目させ、音楽づくりにおいては、グループで作品を作り上げていく活動を通して、多様な考えに触れて自分の考えを広げるとともに創造力も伸ばしていきたい。

➡ **改善ポイント②**

18 集めた資料やデータを使って、わかりやすく説明したり発表したりしている

【選択理由】

全項目の中で一番、「あまりあてはまらない」と回答した児童が多い。楽譜には様々な情報が記されているが、これに着目する児童はあまりいない。また、作曲者の想いや作曲された時代背景に想いを馳せると、表現に深みが増す。「ただ演奏するだけ」から一歩先に進めるような指導を工夫したい。

これまでの取組 指導改善～次サイクル指導計画



カルテの確認ポイント

- ホーム(クロス分析) ■成績情報 ■行動・意欲集計
- 学習履歴 ■アンケート項目一覧

サイクルを通じた気付きポイント

どのアンケート項目でも「全くあてはまらない」と回答した児童はおらず、大体の項目で肯定的に捉える児童が増えている。キー授業を繰り返し行ったことにより、課題意識をもって取り組む児童が増えたのではないかと思う。一方、2名の児童は重点項目全てにおいて苦手意識をもっていることが分かった。特にこの2児童について、効果的な手立てを考えたい。

仮説に対する実践結果

仮説①・ 感受したことや表現したいことと音楽的要素などに関連付けることを意識して鑑賞や音楽づくりの活動を行うことで、知覚と感受とを結び付けながら自分の思いを説明したり表現したりする力を伸ばしていけるだろう。

→ **結果①**：音楽づくりでは、自分の表現したいことと音楽的要素とを結び付けながら表現する児童が多いが、鑑賞においては、音楽的要素の聴き取りに留まる児童も少なくない。

仮説②・ ペアやグループ、全体での共有をする時間を多く取り入れることで、多様な考えに触れて自分の考えを深めたり創造力を伸ばしていけるだろう。

→ **結果②**：作品の発表時に「聴いてよポイント」を共有したことで、着目点が明確になり、互いの表現のよさに気付く児童が増えた。

次期サイクルでの目標

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

「とてもあてはまる」と回答した児童が50%と、前回よりもかなり伸びており、音楽づくりでは、表現したいことと音楽的要素とを結び付けながら作品作りをする姿が多く見られた。しかし、鑑賞では、音楽的要素の聴き取りに留まる児童も少なくない。話型や例を提示するなどして、自分の思いを説明したり表現したりする力を伸ばしていきたい。

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

「とてもあてはまる」と回答した児童は増加しているが、全体で見ると肯定的に捉えている児童はやや減少している。引き続き「聴いてよポイント」を活用して互いの表現のよさに気付かせたい。また、ペアやグループで意見を共有したり練り合ったりする機会を多く設定し、他者と考えることのよさに気付かせたい。

18 集めた資料やデータを使って、わかりやすく説明したり発表したりしている

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

肯定的に捉えている児童が前回よりも14.1ポイント増えている。今後は、楽曲の時代背景や作者の思い、歌詞や楽譜に目を向けさせ、それらも参考にしながら楽曲を味わったり表現の工夫を考えたりする活動を意識して行いたい。

これまでの取組 指導改善～次サイクル指導計画



カルテの確認ポイント

- ホーム(クロス分析) ■ 成績情報 ■ 行動・意欲集計
- 学習履歴 ■ アンケート目一覧

サイクルを通じた気づきポイント

どのアンケート項目でも「全くあてはまらない」と回答した児童はおらず、大体の項目で肯定的に捉える児童が増えている。キー授業を繰り返し行ったことにより、課題意識をもって取り組む児童が増えたのではないかと思う。一方、2名の児童は重点項目全てにおいて苦手意識をもっていることが分かった。特にこの2児童について、効果的な手立てを考えたい。

仮説に対する実践結果

仮説①：既習事項や生活経験を基に予想したり、実験結果を基に考察する際に、書き方の例を示すことで、苦手意識をもつ児童も、理由をつけて説明したりまとめたりする力を伸ばしていけるだろう。

→ **結果①**：繰り返し行ったことにより、自分なりに理由をつけて考えを説明する児童が増えてきている。

仮説② 実験を行う際には、自分の立場（予想）を明らかにして臨むだけでなく、異なる考えも共有させることで、実験結果への関心や理解を深めることができるだろう。

→ **結果②**：意欲的に取り組んだり、他者の考えに興味をもって聞いたりすることはできるが、それをもとに自分の考えを深めたり考え直したりするという意識にはばらつきがあるようだ。

次期サイクルでの目標

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している
【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

「とてもあてはまる」と回答した児童が50%と、前回よりもかなり伸びている。既習事項や結果から分かることをもとに理由をつけて説明する活動を意識的に行った結果だと思う。一方で、「あまりあてはまらない」と回答した児童が3名いる。話型を示したり、聞き取りをしながら考えをいっしょにまとめていったりしながら、少しずつ伸ばしていければと思う。

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

「とてもあてはまる」と回答した児童が増加した一方で、「あまりあてはまらない」という児童も前回より一人増えており、全体で見ると肯定的に捉えている児童は減っている。ペアやグループで話し合ったり、情報を共有したりする機会を多く取り入れ、他者と考えることのよさに気付かせたい。

18 集めた資料やデータを使って、わかりやすく説明したり発表したりしている

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

肯定的に捉えている児童が前回よりも14.1ポイント増えている。実験

本日のアクティブ・ラーニング型授業デザイン

「アクティブ・ラーニング型 授業デザイン」

6年	音楽科	単元名	私たちの国の音楽 ～越天楽今様～	7/7	神戸小学校 中塚 英
----	-----	-----	------------------	-----	---------------

★ 単元のねらい。	日本の伝統的な音楽や和楽器の音で聴いたり表現したりする。
☆ 本時のねらい。	雅楽「越天楽」の学習を生かして演奏する。
○「アクティブ・ラーニング」グループで考え、着目点を明確にする。	
◇ 本時の目標設定	
◎主体力「自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している。」	
◎協働力「グループやクラスのいろいろな意見をうまく使って考えを深めたり広げたりしている。」	

◇カルテからの目標設定

◎主体力「自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している。」

これまでの鑑賞の学習では、感受したこと（～と思った、～のように感じたなど）を、聴き取った音楽的要素（速度や強弱、音色など）と結び付けながら伝えようとする児童が増えてきている。一方で、演奏の工夫を考える活動では、表現内容が表面的なものに留まり、思いや意図をもって表現するには至っていない。

そこで本時では、「越天楽今様」の演奏の工夫が、雅楽「越天楽」のどの部分からくるものなのかを、前時までの鑑賞の学習や雅楽体験をもとに、説明し、表現させたい。

◎協働力「グループやクラスのいろいろな意見をうまく使って考えを深めたり広げたりしている。」

これまでの音楽づくりの学習では、ペアやグループで意見を出し合いながら一つの作品をつくる活動を行った。作品の発表時には、「聴いてよポイント」を共有することで、発表者は自信をもって発表することができ、聴き手は着目点が明確になることで、表現のよさに気付くことができた。

本時でも、グループで意見を出し合いながら表現の工夫を考えたり、「聴いてよポイント」を活用したりすることで、互いの表現のよさや多様な考えに触れ、自分の考えを深めたり広げたりできるようにしたい。

展開	時間	学習活動の流れ
	8分	1 「越天楽今様」を聴く ☆ ゆったりと、落ち着いた雰囲気
問題の発見		2 前時までの学習を生かして演奏する ☆ 雅楽「越天楽」の演奏を聴き、その特徴を説明する。 ◎「吹き物」の音がずり上がっている。 ◎間やずれがある。 ◎飾りの音がある。といった特徴がある。
		学習問題 どのように演奏すれば、よい演奏ができるか。

神戸小学校_カルテからの気付き

一時間一時間の学習問題を意識して学ぶことで、児童自身にも課題がより明確になり、自信につながったのではないかと思います。

社会科の歴史学習において時代の背景や原因などを考える活動を通して思考力や表現力を伸ばしていくようにし、自信をもって意見や考えを述べることのできる児童を増やしていきたい。

児童は、「めあてがはっきりとしている学習活動」「自分が先生や友達から認められた場面がある」授業ならば、自己達成感が高いということが分かった。

個人で考えるよりグループで相談する活動を増やしたりするなど、児童の実態に合わせて授業の構成を行った。こういった授業の積み重ねにより児童の力も徐々に伸びつつあるが、まだまだ満足はいくレベルには達していない。

できていないと感じた児童を底上げし、満足感をもてるような授業改善の手立てが必要であると感じた。

キー授業を繰り返し行ったことにより、課題意識をもって取り組む児童が増えたのではないかと思います。

アンケート項目は全体的に高い水準となっている。しかし、自信をもって取り組んでいる児童は多くはない。

タブレットやコンピュータを活用したり、学び合い学習を進めていく中で、自信がついていったのではないかと思います。

神戸小学校_授業実践後の気付き

話型を示したり、聞き取りをしながら考えをいっしょにまとめていったりしながら、少しずつ伸ばしていければと思う。

「どうしてか」という言葉に少しずつ慣れ、最後の「～だからです。」まで言える児童が増えた。理由を言える児童については、さらに対話形式にしたりして、そのやりとりを楽しむ経験を大切にしていきたい。

「とてもあてはまる」と回答した児童が増加した一方で、「あまりあてはまらない」という児童も前回より一人増えており、全体でみると肯定的に捉えている児童は減っている。ペアやグループで話し合ったり、情報を共有したりする機会を多く取り入れ、他者と考えることよさに気付かせたい。

伝えるだけでなく、それに対してどう思うのかといった、深める活動を少しずつ取り入れていけるよう努めたい。

イラストを見て楽しく考えることができた。私が思っていたよりも、いろいろな視点から考えることができ、たくさんの意見が出た。

問題のレベルを下げる方法（グループでの話し合い、問題自体の簡易化、ヒントを出すなど）を考えて児童の経験を積ませるようにしたい。

ペア活動や班活動を多く取り入れ、対話的な学びが実現できるように工夫した。実践していく中で、活動の進み具合は、班員の仲がいいか、よくないかに左右されやすいことが分かった。メンバーに関わらず活発な話し合いができるように、話し方の決まりなどを示すようにしたい。

授業だけでなく朝の会などでも、「どうしてか」という～を取り入れることで、だいぶ話形に慣れてきたように思う。今後、「理由+思ったこと」を言えるようにしたい。また、算数科での文章問題では、まだ不十分なところがあるので、確かな学びにつなげたい。